

町長室から

越生町長
新井 康之



こども議会開催 こどもたちの姿勢に感動

昨年の12月16日、越生小学校・梅園小学校の6年生児童による、「こども議会」が開催されました。場所は、役場の議場です。

当日は、こども議員を代表して6名の児童が私たち町の執行部に、「美味しい梅をもっと知ってもらうには」等の問題を、目を輝かせながらそれぞれ質問しました。町の執行部も当然真剣に答えました。

こども議会は、こどもたちが主体的にまちづくりに参加し、民主主義のプロセスを体験する貴重な場であり、将来の越生町を担っていくための土台を育むものと確信しています。

町は、こども議員からの提言を、可能な限り今後の町政に活かしていきます。

こどもたちの純真な眼差しと、町への熱い思いに触れ、越生の未来は明るいと改めて感じる1日でした。



こども議員の児童の皆さん

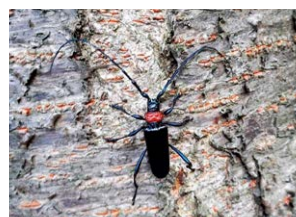
梅の大敵クビアカの被害防止にご協力を

クビアカツヤカミキリ（以下クビアカ）は梅やサクラ・ハナモモ等（バラ科）の樹木を食害する特定外来生物です。6月～8月頃樹木の樹皮の割れ目に産卵し、サナギ化した幼虫は樹木の内部に入り込み、1～3年にかけて樹木の内側を食い荒らし、弱らせ枯らせてしまいます。

埼玉県では平成29年頃に県南東部、県北部地域から被害が広がり、1匹の虫が約1,000個の卵を産むため、瞬く間に広がり、県北の桜の名所では伐採せざるを得なくなっています。越生町でも令和5年に、初めて確認されてから、町内全域のサクラ・モモに被害が拡大して、梅にも被害が及び梅が全滅してしまう恐れもあることから、私は危機感を持って、以前から国・県へ直接対策を要望してきました。

梅は本町の特産です。何としても梅を守らなければなりません。クビアカは農家の梅に限らず、一般家庭のすべてのバラ科の樹木をも食害します。

クビアカが侵入している樹木は、ノコギリで切った後で出るカスのようなもの（フラスと言います）が、樹木の根や幹の途中に散らばっています。これがあるとクビアカによる被害の証拠です。発見したら、町の産業観光課にお知らせください。皆様のご協力をお願いいたします。（電話 292-3121）



クビアカの成虫



クビアカのフラス

提供：埼玉県環境科学国際センター

県との新年懇談会に出席 クビアカ対策を依頼

1月8日県知事公館で「県と市長会・町村長会との新年懇談会」が行われ参加しました。これは、毎年新年に県の幹部と市長会・町村長会で行われる意見交換会です。

県知事他、県の幹部が出席しますので、各市町村長が自分の自治体の問題や要望などをフランクに言うことができ、私は楽しみにしています。

私はさっそく、知事に再度、クビアカの問題の解決方を依頼しました。知事はしっかり対応すると答えられました。副知事・総務部長・企画財政部長・農林部長・環境部長にも依頼しすべて同様の答えをいただきました。特に企画財政部長は、来年度の予算は、クビアカの予算を多くしたと言ってくれました。

同懇談会終了後役場に戻って間もなく、産業観光課長から、「県のクビアカの担当から、連絡がありました」と報告があり、さっそく私の依頼の効果があったことを実感しました。

今後も全力を尽くしてまいります。



新年懇談会に出席

子育てしやすい越生町に

問 私は、子育て世代が、もっと子育てしやすい環境を整え、多くの人に移り住んでもらうために、子どもの遊び場を増やしたり、子育てを支援するイベントを企画したりすることについて提案します。

答 町では令和6年5月に「越生町こどもまんなか応援サポーター宣言」を行いました。これは、町全体で子育て世帯やこれから子育てする方を力強くサポートするものです。ご提案をいただいた、こどもの遊び場を増やすことについては、現在、新たな遊び場として、児童館の整備を進めています。児童館の屋内には遊具を設置し、真夏や雨の日でも安心して遊ぶことができる場所になるように考えています。また、イベント企画については、ご提案のとおり、巡回バスなど参加しやすいアクセスも検討していきます。今後もたくさんの方に参加していただき、町の宣伝となるイベントを企画していきます。



▲越生小学校
山口莉子 議員

自然豊かで明るい越生町に

問 私は、越生町をより良くするために、通学路や歩道に、もっと花や木を植えることを提案します。

答 現在、「地球温暖化」が大きな問題になっています。この原因のひとつが、私たちが生活するうえで出している「二酸化炭素」などの「温室効果ガス」です。地球温暖化を防ぐためには、節電や節水、「食ロス」など二酸化炭素を出さないことが必要になります。また、ご提案の花や木など植物を増やすことも大切な取り組みです。

町では、地球温暖化対策として、越生町、毛呂山町、ときがわ町、東秩父村で組織する「山並み連携ゼロカーボンシティ協議会」を設立し、2050年までに二酸化炭素の排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を共同で宣言し、様々な取り組みを行っています。

ゼロカーボンの実現には、みなさん一人ひとりの行動が欠かせませんので、二酸化炭素の排出削減に協力をお願いします。



▲梅園小学校
山田芽依 議員

おためし店舗制度の導入について

問 今、越生町では、空き家や空き店舗を家として売る仕組みはありますが、短期間だけ借りられる所は少なく、お店を始めようと思う人がいても始めづらい状況だと感じます。

そこで私は、空き家や空き店舗を短期間賃貸する、「おためし店舗制度」をつくることを提案します。

答 ご提案の「おためし店舗」は、越生町のまちづくりに重要な視点と認識しております。現在、空き家バンクは住居用が中心で、街なかの空き店舗活用には所有者確保が課題です。そこで、町有施設「うめその梅の駅」などを活用し、短期間で調理や販売を体験できる場を提供することで、創業への第一歩を支援します。商工会連携の創業塾や補助制度も活用し、多様な創業を後押しします。

また、移住者向け「お試し住宅」整備も進め、創業と居住の両面から越生の魅力を高め、若い世代や移住者が暮らし、働く喜びを実感できる町となるよう、共に考えてまいります。



▲梅園小学校
海老根莉香 議員